

# 日大土木会会報

発行：日大土木会広報部会

〒101-8308

東京都千代田区神田駿河台1-8

日本大学理工学部土木工学科内

TEL：03-3259-0662

FAX：03-3293-3319

http://www.nu-dobokukai.com

## 平成二十七年 通常総会開催報告

平成二十七年六月二十九日(土)午後四時より、理工学部駿河台校舎一号館二階一・二会議室において日大土木会・平成二十七年通常総会が開催されました。

総会は、盛武建二会長(昭和四十四年・工土木卒)の挨拶に続き、本会副会長でもある西松好郎氏(昭和四十八年理工土木卒)が議長に選出され議事進行を務められました。第一号〜第三号までの三つの議案は、鎌尾彰司総務部会長(平成元年・理工土木卒)が説明を行い、満場一致で承認されました。審議された議案は次の通りです。

### 【第一号議案】

- (一)平成二十六年年度収支決算及び監査報告(監査報告・重村智監事 平成七年・理工土木卒)
- (決算表は次ページ)
- (二)事業報告(抜粋)
- ・会員数：一三〇三名
- ・年度内入会：一二名
- ・同 退会：二八名
- ・同 死亡報告：三名
- ・三学部四学科への教育補助金の贈呈を実施(各学科に対し五万円の補助を贈呈した)
- ・会報第十六号及び第十七号を、それぞれ平成二十



総会で挨拶される盛武会長

六年六月二十八日と十月十五日に発行したホームページの内容の更新を実施

・特別講演会の実施  
講師：落合実先生(生産工学科長)

・演題：「生産工学科長に就任して」

日時：平成二十六年六月二十九日(土)

・学生向け就職支援に関する講演会実施(一件)

①技術伝承講演会  
日時：七月三日(水)

場所：理工学部駿河台校舎一三二教室

参加者：約一三〇名  
講師：清水良祐氏(本学卒・UR職員)

・演題：「東日本大震災の復興に携わって」

②まちづくり講演会  
日時：二月十九日(月)

場所：理工学部駿河台校舎CSTホール

参加者：約一〇〇名  
講師：佐野克彦氏(本学卒・東京都都市整備局技監)

・演題：「二〇二〇年オリンピック大会を見据えたまちづくり」

・講演の様子は、いずれも会報第十八号(前号)に掲載されています

### 【第二号議案】

(一)平成二十七年年度事業計画(抜粋)

・名簿・会報(第一八号及び第一九号)の発行

・ホームページによる情報の発信

・会則・細則の見直し

・特別講演会の開催及び在学生向けの就職支援に関する講演会等の実施

①日本橋の歴史

②東松島市の震災復興に関わる特別講義

③若手OB(公務員・コンサルタント・ゼネコン)と学生懇談会等

・三学部四学科への教育補助金の贈呈

・研究発表会の開催支援

・第十八回地盤の会 他

・新たな研究会の発足にむけた支援活動

・研究発表会の開催支援



通常総会の様子

## 平成26年度 収支決算

## (1) 収支決算総括表

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

収入	1,803,255円
支出	1,284,374円
次年度繰越収支差額	518,881円

## 1) 収入の部

金額単位：円

科目	予算額	決算額	増減
会費収入	1,600,000	907,030	▲692,970
総会収入	150,000	118,000	▲32,000
雑収入		20,059	20,095
前年度繰越金	758,166	758,166	0
収入合計	2,508,166	1,803,255	

## 2) 支出の部

金額単位：円

科目	予算額	決算額	備考
1. 事業費	1,200,000	662,606	
会議費		201,250	総会、特別講演会等
印刷製本費		163,884	名簿・会報等
教育補助費		200,000	各学部教育補助
講演料		30,000	地盤の会
ホームページ等		36,472	サーバレンタル等
旅費		31,000	東京一郡山 他
2. 管理費 他	700,000	621,768	
消耗品費		79,859	事務用品・封筒
通信運搬費		503,302	総会案内発送 他
アルバイト		30,000	総会補助
会合費		8,607	事務局食事代
その他		0	
3. 次年度繰越額	608,166	518,881	
支出合計	2,508,166	1,803,255	

## 平成27年度 予算案

## 1. 収入の部

金額単位：円

科目	平成27年度予算額	平成26年度決算額	備考
収入			
会費収入	1,200,000	907,030	年会費
雑収入	150,000	138,059	総会費・利息他
前年度繰越収支差額	518,881	758,166	
収入合計	1,868,881	1,803,255	

## 2. 支出の部

金額単位：円

科目	平成27年度予算額	平成26年度決算額	備考
事業費	750,000	662,606	総会・委員会・印刷製本・講演料・活動支援・旅費等
管理費	700,000	621,768	消耗品・通信運搬・アルバイト等
予備費	0	0	
次期繰越金	418,881	518,881	
当期支出合計	1,868,881	1,803,255	



監査報告をされる重村智監事



総会議長の西松好郎氏



挨拶される竹澤顧問



挨拶される森元顧問

総会終了後の懇親会は、本会顧問の森元峯夫氏の開会挨拶・同じく顧問の山田清臣氏の乾杯により開始されました。また、地盤の会に参加して

### 【第三号議案】

(一) 平成二十七年年度 予算案に関する件  
・平成二十七年年度の予算については、二十六年年度の予算及び決算を参考にして前ページに示したとおり立案した。

最後は、前会長の竹澤三雄氏の閉会の挨拶により終宴となりました。



懇親会の様子



講演をされる和田祐二氏

橋を誇りに思う心意気が伝わってきます。その一部を原文のまま紹介します。

### 「日本橋の百年とこれから」 和田 祐二

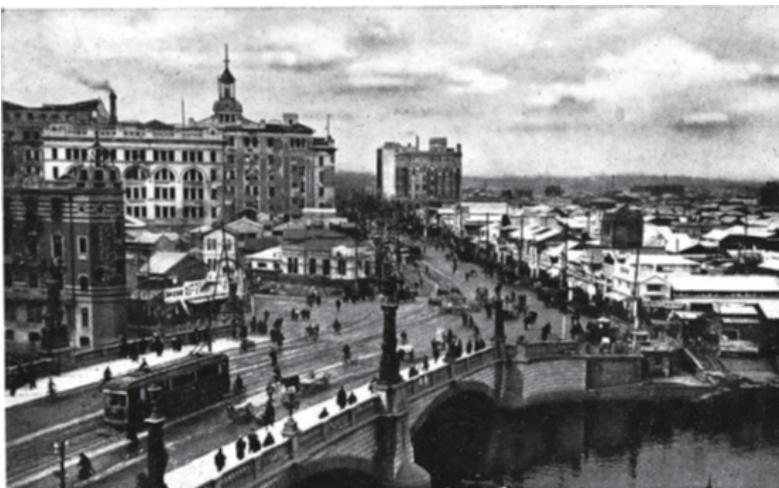
日本橋は、徳川幕府により江戸が開府された慶長八年（一六〇三年）に創架されました。現在の橋は、明治四十四年（一九一一年）に和洋折衷のルネサンス様式二連石造アーチ形式で構築され、二〇代目にあたります。それまでの東京市の財政事情もあり、十九代までは木橋で消失や老朽化による架け換え・改修が行われていましたが、露戦争後の好景気を受け「帝都を飾るにふさわしい橋」として六年の歳月をかけて架橋されました。

通常総会終了後、和田祐二氏（昭和五十三年・理工土木卒・元国土交通省）をお迎えして特別講演をおよそ一時間にわたり開催しました。講演タイトルの「日本橋」は、同氏が長年にわたり調査・研究をしてこられたもので、その一端を紹介していただきます。ここでは、講演要旨をご紹介します。

## 特別講演会 開催 「日本橋」和田祐二氏

三十九年度より六ヶ年の繼續事業たりし新日本橋も愈々落成し、四十四年四月三日盛大なる開橋式を舉行する事となつた。抑も日本橋は東京市交通の中樞に當り、歴史的にも因縁淺からざる形勝の地位を占めて居る事とて、今回の改築によりて帝都の中央を飾るに足る威嚴と美觀とを併せ得たる事は、市民の誇りとする所である。

額の費用を投じて其壯麗華美を競ふのが常で、例へば歐洲文華の中心たる巴里市のアレキサンダー三世橋の如きは、露佛同盟成立の記念として建築された物で、爲に橋名には露國先帝の名が冠せられて居る程である。而して其起工式に於いてはニコラス二世陛下親しく現場に臨幸遊されて御手づから基石を置かれた程であるから……以下略



日本橋から三越を望む 中央区立京橋図書館 所蔵

日本橋の総合デザインは、旧幕臣の末裔である妻木頼黄が担当しました。妻木は日銀本店や東京駅を設計した辰野金吾と双璧をなす明治を代表する建築家でありま。設計は日下部技師長の下、橋梁課長の樺島正義と主任技師の米元晋一他数名が担当しました。

青銅装飾は東京美術学校に委嘱され、麒麟像や獅子像の装飾は彫刻家渡辺長男の手により制作されました。麒麟の像の制作にあたっては、満を持して天下に飛翔するという意味を込めて、翼と鱗の二種類を用意し、どちらにするか諸氏の意見を伺ったところ「鱗の方がおもしろい」という結論に達したということ



特別講演会の様子

です。東野圭吾氏の小説「麒麟の翼」ですが、この物語の顛末から、氏が敢えて「翼」とした意図がくみとれます。日本橋は土木と建築と美術の粋を結集して構築されたわけですが、橋の四隅の銘板の揮毫は最後の将軍徳川慶喜によるものです。尾崎東京市長の揮毫の要請に対し、慶喜はこれを快諾したと伝えられています。これには旧幕臣の子であった妻木の陰ながらの尽力があったと言われています。

日本橋は、これまで四度の試験に立たされています。最初は一九二三年の関東大地震です。二度目は一九四五年三月の東京大空襲です。何れも辺りは壊滅的な打撃を受けましたが、日本橋は踏ん張り続

けました。三度目は一九三一年、現在の地下鉄銀座線の上野〜新橋間の延伸に伴い日本橋の下を鉄道が潜り抜けたことです。四度目は、一九六四年の東京オリンピックを控えた一九六三年に日本橋上空に首都高速道路が建設されたことです。その経緯を以下に紹介いたします。

東京オリンピックに向けた首都高速道路の整備に関する経緯

一九五九年五月、国際オリンピック委員会総会において、第一八回オリンピック開催都市が東京に決定。競技場などオリンピック施設周辺及び羽田空港と都心間の交通需要に対処するため、首都高速道路の整備が不可欠。

一九六〇年二月、首都圏整備委員会において、オリンピック東京大会（一九六四年一月）のため特に整備を急ぐ道路を決定。このうち、首都高速道路は一号線を初めとする五路線（三・二・九キロメートル）を決定。短期間で供用させるため、用地買収を少なくする観点から、既存の

道路、川、堀、水路の上空を極力活用し、オリンピックまでの間に四路線（三・二・九キロメートル）を供用。

今こそ国土交通大臣の下にその在り方が検討され、東京都知事が「負の遺産」と称していますが、当時の人々は戦後の荒廃から立ち上がった日本の力を欧米の列強はじめ世界に示すため、そして世界の東京のために、と涙を吞んでこれを受け入れたのです。

日本橋上空の首都高速道路の線形決定に際しては、高速道路の桁が「東京市道路元標」に触れることのないよう、管理する東京国事務所が指導したという記録が残っています。一九七二年には都電の廃止に伴い当時電車の架線を併用していた東京市道路元標は橋の中央から北橋詰に移設され、そのあとに時の内閣総理大臣佐藤栄作氏の揮毫による「日本国道路元標」が据えられました。北橋詰の元標広場には、同じ木型から同時に制作された双子（三つ子説もあり）の道路元標（敢えて複製としています）が据えられています。

最後に、三越社長・会長を歴任され、名橋「日本橋」保存会会長として、長年日本橋を守ってこられた井上和雄さんの思いをご紹介してお話を閉じさせていただきますが、実現可能な夢として、首都圏三環状道路の完成を踏まえ、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック開催までに、政府として日本橋に清流と青空を取り戻す手立てを決定していただければとても嬉しいと考えております。

昭和三十八年に首都高速道路が架けられ、日本橋が大きな庇で覆われてしまい、高度経済成長期以降、日本橋はその存在を人々から忘れられようとしていました。ここで日本橋を保存し、次代に引き継ぐことを目的に名橋「日本橋」保存会は発足したのです。

当時江戸は世界で唯一の百万都市であり、文化に費やされるお金も莫大であったことでしょう。芝居もあれば、魚河岸もあり、大名行列もあれば海外使節の行列もある。一九八〇年代から九〇年代にかけては、日本橋が地盤沈下しまし

た。バブル期に銀行が大挙して日本橋に支店を開設、午後三時にはシャッターが下ろされ、閑散とした街に転落しました。地下鉄の乗降客も伸び悩み平成十一年には東急日本橋店（旧白木屋）が閉店に追い込まれました。

術館所蔵の「歴代勝覧」（日本橋大通絵巻）有志により日本橋地下歩道に復元のような江戸時代の文化の豊かさや活気が際立つ街になつてほしい

名橋「日本橋」保存会会長 井上和雄氏 談  
(二〇〇五年当時)

## 第十八回 地盤の会 開催報告

第十八回目となる「地盤の会」が通常総会に先立って、午後一時から開催されました。今回のプログラムは次の通りです。

### 第十八回

#### 地盤の会 研究会

#### プログラム

- 松橋 学 氏 (平成十九年 理工土木卒)
- (国土交通省 国土技術政策総合研究所)
- 「下水道施設の液状化対策」
- 櫻井 淳司 氏 (平成十三年 生産土木卒)

〔御茶ノ水駅付近防災対策工事共同企業体・東鉄工業〕

「災害に強い鉄道づくり」

「御茶ノ水駅付近の耐震補強工事の概要」

山田 清臣 先生  
(日本大学名誉教授)

「私と地盤工学」

当日、司会を務めていただいた会田和義氏（平成七年・理工土木卒）に地盤の会の報告を執筆していただきましたので紹介させていただきます。

「地盤の会」開催報告

会田 和義  
(佐藤工業)

第十八回目の地盤の会では三つの講演発表がされました。

一つ目の講演は、国土総合技術研究所の松橋学氏(平成十九年卒)による、「下水道施設による液状化対策」の講演でありました。

近年、耐震設計が主流となり、その中でも下水道施設に関しては設計方法も明確に示



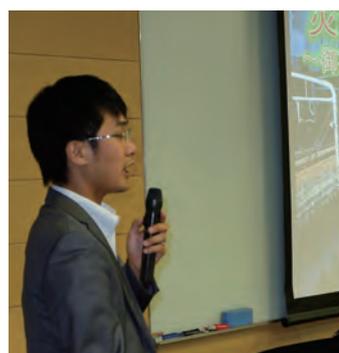
発表される松橋学氏



司会の会田和義氏



発表される山田清臣先生



発表される櫻井淳司氏

されている。また、管路の施工に關してもリブ管等を使用し、砕石による埋戻しを採用する自治体も多くなっているのが現状と感ずる。しかし、「液状化」に対しては、施工における規定等が十分に整備されていない様にも思える。

講演では、東日本大震災の経験を踏まえ、液状化対策に有効な施工方法の検証結果を報告するものであった。検証は試験施工実施によるものであり、埋設形状や材料により分類し、地震後の対策効果までを確認できるものです。

今後の設計、指針、規準類に反映される知見を示すものであると感じました。

二つ目の講演は「災害に強い鉄道づくり」と題し、御茶ノ水防災JV東鉄工業(株)の櫻井淳司氏(平成一三年生産工卒)の講演であった。

現在施工中であるJR中央線御茶ノ水駅の護岸耐震補強工事に関する施工方法を紹介するものであった。中央線御茶ノ水駅付近の線路は、神田川に面した盛土法面上に敷設されているため、過去に台風や地震により大きな被害を受けている。

対策工事は、地震時における盛土部の安定性を中径棒状補強工(アンカー工)、ならびに法枠工により向上させるものであった。営業線を維持しながら施工を行うための設備、安全、ならびに環境維持に対する工夫を報告いただいた。今後は鉄道工事に限らず、類似の耐震補強工事においても参考となる技術と感ずいた。



地盤の会研究発表会の様子

三つ目の講演は、私の恩師でもあります山田清臣先生で、「私と地盤工学」のタイトルで発表されました。これまでの先生の豊富な経験に基づき、

づくもので、本学土質研究室創設から歴代の教授陣の話、デューク大学(アメリカ)に留学された時の話、さらには道路公団時代に携われた名神高速道路の建設に携わった話等大変貴重な話をお伺いすることができました。

地盤の会  
新委員長に  
峯岸邦夫先生

地盤の会では、委員長が佐々木勉氏昭和四十九年卒から峯岸邦夫先生(写真右下)



挨拶される  
峯岸新委員長

交通システム工学科教授・昭和六十二年理工交通卒・平成元年院修)に交代となりました。

峯岸邦夫新委員長  
挨拶より

「佐々木勉委員長を引きついで新しく委員長に就任させていただくことになりました。岸でございます。

諸先輩も大勢いる中、委員長就任の機会をいただき、大変光栄に思います。

これまでの地盤会の歴史を生かしつつも、今の時代に即した会の運営が出来るように、また、会員・学生が多く参加できるように発表会を目標として行きたいと考えております。

皆様方、これまで以上のご協力をお願い申し上げます。委員長就任の挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございます。 (地盤の会・閉会挨拶より)

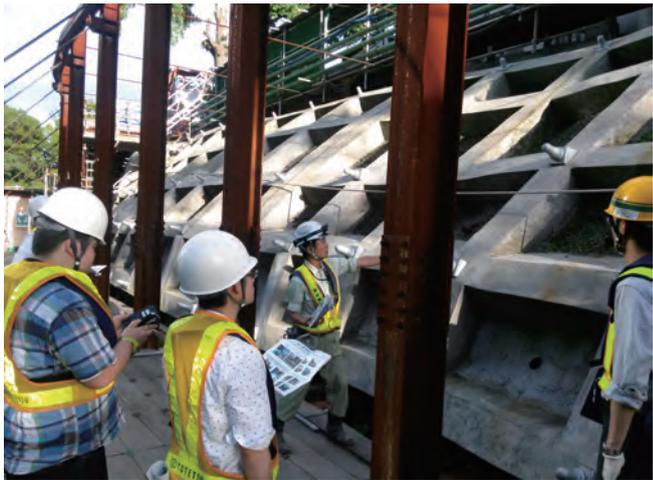
院生が工事  
現場を見学

地盤の会で、JR御茶ノ水駅付近で法面耐震補強工事の発表を東鉄工業の櫻井淳司さんがされたのを受けて、大学院(理工学研究科)の土質力学特論Vの授業の一環で、実際の工事現場を平成二十七年七月十五日に見学させていただきました。参加学生は土木工学専攻の学生六名と社会交通工学専攻の学生二名、引率教員二名の合計十名でした。参加学生の感想を紹介いたします。

「御茶ノ水駅付近・防災対策工事を見学して」

大学院理工学研究科  
土木工学専攻  
熊原 拓希

JR御茶ノ水駅から水道橋駅にかけて大規模地震による斜面の崩壊を防止するための対策工事を行っています。御茶ノ水駅付近は過去に関東大震災で崩壊した歴史があり以前より災害の危険性はあったようです。今回は地盤の会で



見学会の様子（中央で説明をする櫻井さん）

東鉄工業の桜井さんより工事の概要、施工のステップ、現在の進捗状況を学生にも分かるようにご説明をいただき、とても理解しやすかったです。後日、大学院の講義で実際に対策工事の現場を見学することができました。

地盤の会の講演で聞いたことを実際に目で見ることで、説明ではイメージしづらかったところもとてもよく理解することができ、良い経験となりました。

### 学生向け 技術伝承・講演会 テーマは「災害管理」

去る平成二十七年七月二十二日（水）、理工学部土木学科三、四年生を対象に技術伝承・講演会「東松島市の震災復興」を開催いたしました。



技術伝承講演会の様子

講師は、昨年に引き続き、都市再生機構（UR）で東日本大震災の復興事務所長をされている清水良祐氏及び本会副会長・事業部会長の神保廣光氏の両名であります。講演の主な項目は、

- ①東松島市の震災被害状況（ビデオ上映）
- ②東松島市の復興まちづくり計画の進捗状況
- ③URの取り組み地区（東矢本駅北、野蒜北部丘陵）の復興状況
- ④復興事業における課題以上の内容を体系的に話していただきました。

### 塩竈市長 佐藤昭氏 再選

任期満了に伴い八月

三十日に実施された塩竈市長選挙において、佐藤昭氏（昭和四十一年理工土木卒・元宮城県港湾空港局長・土木部次長）が、新人候補を大差で破り見事四選を果たされました。



理工学部新入生歓迎式典で祝辞を述べられる佐藤市長

がんばれ！塩竈

がんばれ！佐藤市長

佐藤市長は、本年四月に理工学部新入生歓迎式で来賓として祝辞を述べられております。また、日大土木会では、平成十一年に理工学部で開催された東日本大震災復興支援報告会で被災地の市長として講演をいただいた際に塩竈市の復興に向けて復興寄付金を贈呈させていただきました（会報第十二号で紹介させていただきました）

### 日大土木 百周年

二〇二〇年、東京オリピックが開催される年に日大土木が創設百周年を迎えます。

一九二〇年に日本大学高等工学校・土木科としてスタートを切り、一九二三年の第一回卒業生を送り出した年に関東大震災が発生し、その後の復興に本学土木科の卒業生が大活躍したことは言うまでもありません。

### 事務局より

第十九号の会報は、平成二十七年通常総会・懇親会・地盤の会研究発表会の報告・学生向け特別講演会等の話題を掲載いたしました。本会報及び本会に対す

るご意見並びにご要望等がありましたら、お気軽に事務局までご連絡お願いいたします。

また、会員名簿も同封させていただきます。会員名簿作成にあたり、転居等による住居不明の方が大勢おられます。名簿をご覧いただき住所不明者の方の連絡先がわかりになりましたら、またご自身の住所・勤務先等の情報が修正されたら事務局まで一報いただければ幸に存じます。

連絡方法については、手紙・FAX・電子メールのいずれでも結構です。よろしくお願いいたします。

また、皆様のお知り合いで日大土木会に入会希望者がおられましたら、入会申込書類等を送りますので、事務局にお知らせ願います。



(S・K)